

資料 6

第3次安芸高田市総合計画基本構想（案）

目次構成	検討のポイント
第2章 基本構想	
1 基本理念と将来像	
(1)基本理念	・まちづくりに係る普遍的な考え方を整理 ⇒百万一心、未来へつなぐ安芸高田
(2)将来像	・市民参画意見を踏まえた上で、世代を超えて共通する安芸高田市ならではの価値観・機能を設定 ⇒市民アンケート調査で定量的に把握し、将来像を検討
3 将来像の実現に必要な目標数値	①幸福度（新規追加の目標数値） ・市民アンケート調査結果を踏まえ、現況と将来的に目指す幸福度を設計 ②市民の地域への愛着度（新規追加の目標数値） ・受け継いでいきたい安芸高田の価値観を評価していくための指標として設計 ③産業の付加価値額・地域経済循環率・観光客数（新規追加の目標数値） ・新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能を評価していくための指標として設計 ④人口（＝人口ビジョンで位置付ける目標人口） ・人口ビジョンで、住み続ける上で必要な生活サービス機能を維持するために必要な目標人口を設計
4 政策体系	・市長インタビューを実施し、所信表明との整合性を担保 ⇒3つの姿勢、5つの政策目標、それに基づく施策体系 ・各政策目標を実現するために検討すべき横断的な政策手段を検討 ⇒公民連携の強化、デジタルの活用、プロモーション
5 計画の推進	①基本計画の策定と推進 ②健全な財政運営と行政改革の推進 ③行政評価による経営管理 ④広域連携の推進と国・県等関係機関との連携強化

基本理念・・・まちづくりに係る普遍的な考え方

百万一心、未来へつなぐ安芸高田
(皆で力を合わせれば、何事もなし得る)

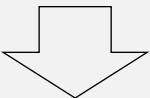
誰が？・・・・・・市民＋市に関わる多様な人々
誰に？・・・・・・20年後の次世代、子や孫たち
何をつなぐ？・・・世代を超えて共通する安芸高田市

具体化



将来像・・・基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態

歴史からみる安芸高田らしさ



過去から現在までにみる
安芸高田のDNA

受け継いでいきたい安芸高田らしさ

新しい価値観を生む・まちの
魅力を育む機能

守っていききたい地域にとっての
暮らしの機能

・ 既往文献等を活用

・ アンケート調査結果を活用
・ シンポジウムの結果も考慮

・ アンケート調査結果を活用

将来像・・・基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態

人々と文化が“とけあう”、新しいものが“芽ぶく”場所

●基本構想を胸にこれからを描き出そうとする安芸高田市

これまでの歴史も踏まえて、第3次安芸高田市総合計画基本構想を策定し、多様な人々がまじり、とけあい、新しいものが芽ぶく土壌を育て、みんなのチャレンジを応援します。

●様々な人・文化がとけあい、独自の文化が芽ぶいた安芸高田市

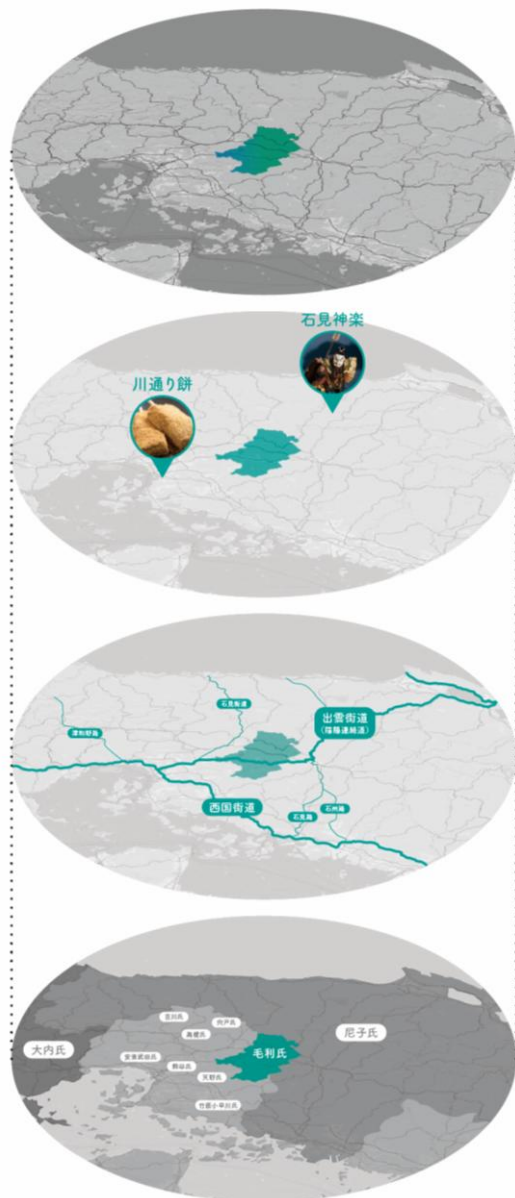
石見を中心とした山陰地方から神楽が伝わり、現在では安芸高田独自の神楽として大成しました。また、吉田荘の毛利師(もろ)親(ちか)の故事から縁起物として食べられるようになった川通り餅は、毛利元就の勢力拡大と毛利輝元の広島移転に伴い、現在の広島県で広く知られるようになったといわれています。このように、外からの文化を柔軟に取り入れて発展させ、また、他地域にも文化的影響をもたらした安芸高田の地は、新しいものが芽吹く場所でありました。

●山陽・山陰の結節点として交通の要を担った安芸高田市

東西の大動脈であった西国街道に近く、山陽・山陰を結ぶ出雲街道が通っていました。交通・物流の要衝であったことで、多くの人々と共に文化が行き交う場所であったと想像されます。

●歴史の転換点で多様性の受容のもと成長した安芸高田市

安芸高田の地から政治・軍事において果断を重ねて成長する毛利氏の存在がありました。独裁ではなく共生のスタンスで中国地方をひとつにしていく毛利元就の柔軟性が、現在の安芸高田市に息づいています。



将来像・・・基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態

受け継いでいきたい 安芸高田の価値観につながるキーワード	根拠	
	アンケート調査結果 (次世代に受け継ぎたい価値観)	シンポジウム結果 (発言・アンケート調査結果)
- 空間的には、田舎・ゆとり・まちなみなどがまざり合い、その多様性が市民にとっての安芸高田らしさと思料 - 次世代、現役世代、子育て・毛利元就・安芸高田神楽・サンフレッチェ・多文化共生など多様な人の価値観が混在 ⇒地域の多様性、多様な人材の価値観が混在する状況を「とけあう」で表現します	- 世代に関わらず以下の回答割合が高い ⇒田舎の原風景 ⇒都会では得られないゆとり - 中高生の地域愛着には以下の項目との関連が強い ⇒中心部のまちなみと郊外部の田舎風景	- 高校生が安芸高田市のことを中途半端と表現し、それがちょうど良いと考察 - シンポジウム全体を通じての感想では、「安芸高田市の魅力を再認識した」の回答割合が高い ⇒次世代、現役世代、多様な人材・価値観が混在 - みんなのチャレンジを応援できるまちにするには ⇒まずは肯定して認めてやってみることが重要
- 新しい社会・地域の変化に対応できるまちや若者の価値観やチャレンジを応援するまちを受け継ぎたい市民の声が多い - 市内を掘り起こせば、若者を含むみんなのチャレンジが様々な地域で発生 ⇒時代の変化への対応、若者を含むみんなのチャレンジを応援したい、市民意向の状況を「芽ぶく」で表現します	- 世代に関わらず以下の回答割合が高い ⇒新しい社会・地域の変化に対応できるまち - 中高生が考える将来の住みたいまちの姿 ⇒学年が上がるほど、「若者の価値観やチャレンジを応援するまち」と回答する割合が高い	- 次世代を担う高校生が地域に魅力化事業を提案 ⇒アンケート調査結果では、高校生の熱意と自由で斬新な発想が良かったという回答割合が高い - 地域おこし協力隊をはじめ、若者を含むみんなのチャレンジを多数共有 - みんなのチャレンジを応援できるまちにするには ⇒行動することで次の展開が進み、変化する
- 市民からは自分らしく生きていける環境を受け継ぎたいという意見あり - 自分らしさや一人ひとりの想いを形でできるまちにするには、お互いの生き方や価値観を尊重し、対話による検討が必要 ⇒上記の状況を踏まえて、「ひとつになる」というキーワードを活用	世代に関わらず以下の回答割合が高い ⇒自分らしく生きていける環境	- 久保田氏より、「このまちが好き」という想いが積極的な地域活動や安芸高田市を守る力になり、一人ひとりの想いを形にできるまちであって欲しい、というコメントを頂いた - みんなのチャレンジを応援できるまちにするには ⇒周りの人に共有することで、魅力的で一人ひとりが好きになる安芸高田市につながる

将来像・・・基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態

とけあい、芽ぶき、一つに就る。

安芸高田市は市街地と田園地帯がとけあう、暮らしやすいまち。
この風景の中で歴史と文化、多様な人々とがまざりあい、
まちのカタチと新しいモノ・コトを織りなしてきました。

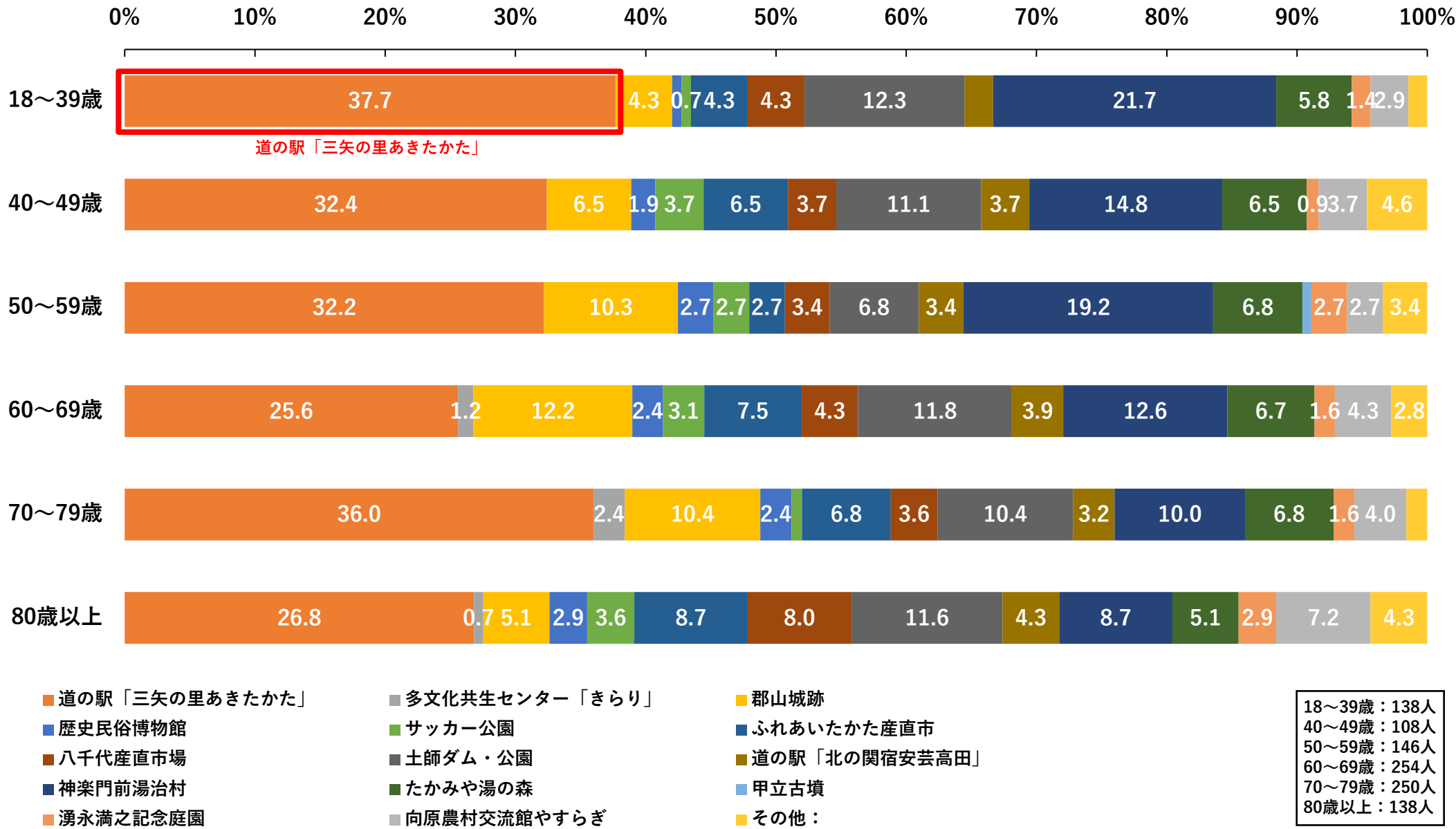
今、若者をはじめ、多くの市民の新たなチャレンジが、まちのあちこちで芽ぶいています。

お互いの生き方や価値観を尊重し、対話の中で解決や決定がおこなわれるまち。

とけあい、芽ぶき、一つに就る、こうした価値観を次世代に受け継ぎます。

・世代に関わらず、「道の駅「三矢の里あきたかた」」の回答割合が最も高いです。
・道の駅をゲートウェイに、各地区の魅力を活かし、多様な人々がまじり、新しいことが芽ぶく場所づくりを進めます。

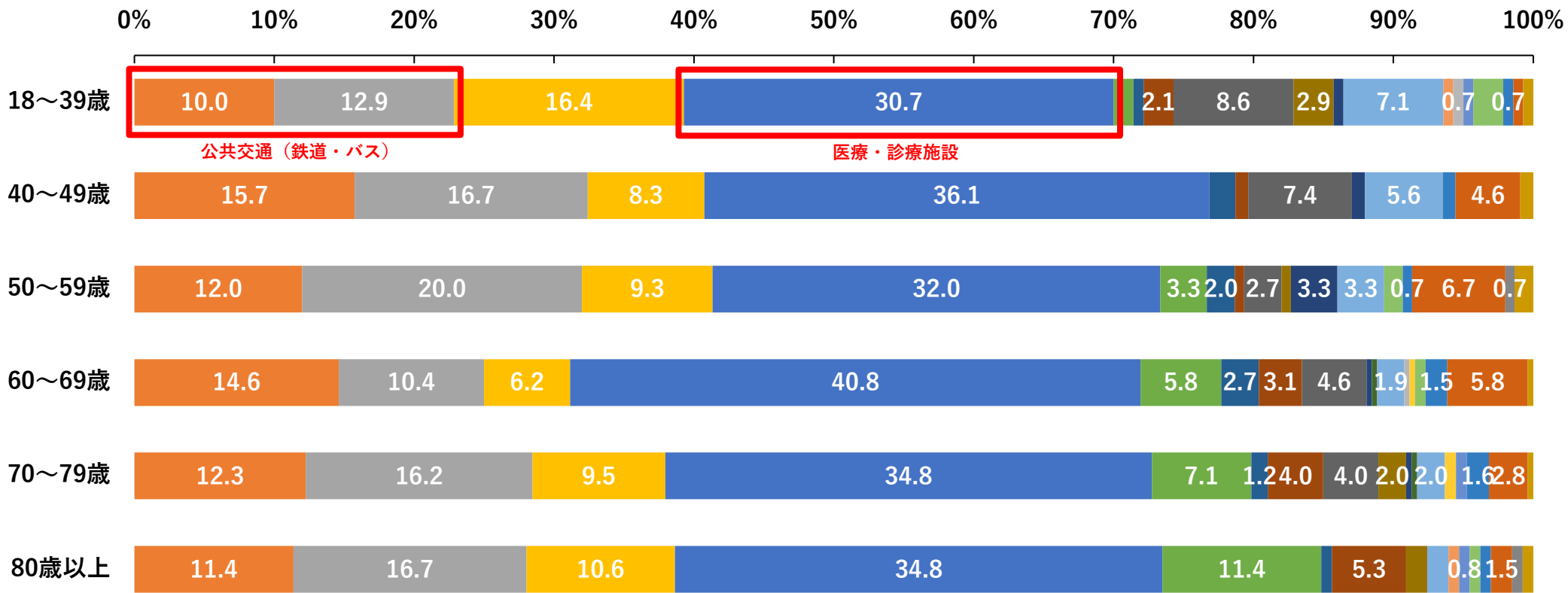
■20年後の未来、あなたが安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設【第1位の回答】※再掲



・世代に関わらず、「医療、診療施設」・「公共交通（鉄道・バス）」の回答割合が最も高いです。

・安芸高田らしさを未来に受け継ぐためにも、医療、移動手段をはじめ、生活する上で必要不可欠な機能を確保します。

■20 年後の未来、あなたが安芸高田市で残していきべきと考える生活機能【第 1 位の回答】※再掲



公共交通（鉄道）

医療、診療施設

市民窓口（支所）

教育施設（高等学校）

文化機能・拠点

生涯学習機能・拠点

雇用確保、斡旋機能・拠点

公共交通（バス）

高齢者福祉機能・拠点

教育施設（小学校）

児童福祉機能・拠点

広場

図書館

社会体育施設（体育館、温水プール等）

小売機能・拠点（最寄品、日用品が買える場所）

防災機能・拠点

教育施設（中学校）

子育て支援機能・拠点

集会所

産業育成機能・拠点

その他：

18～39歳：140人

40～49歳：108人

50～59歳：105人

60～69歳：260人

70～79歳：253人

80歳以上：132人

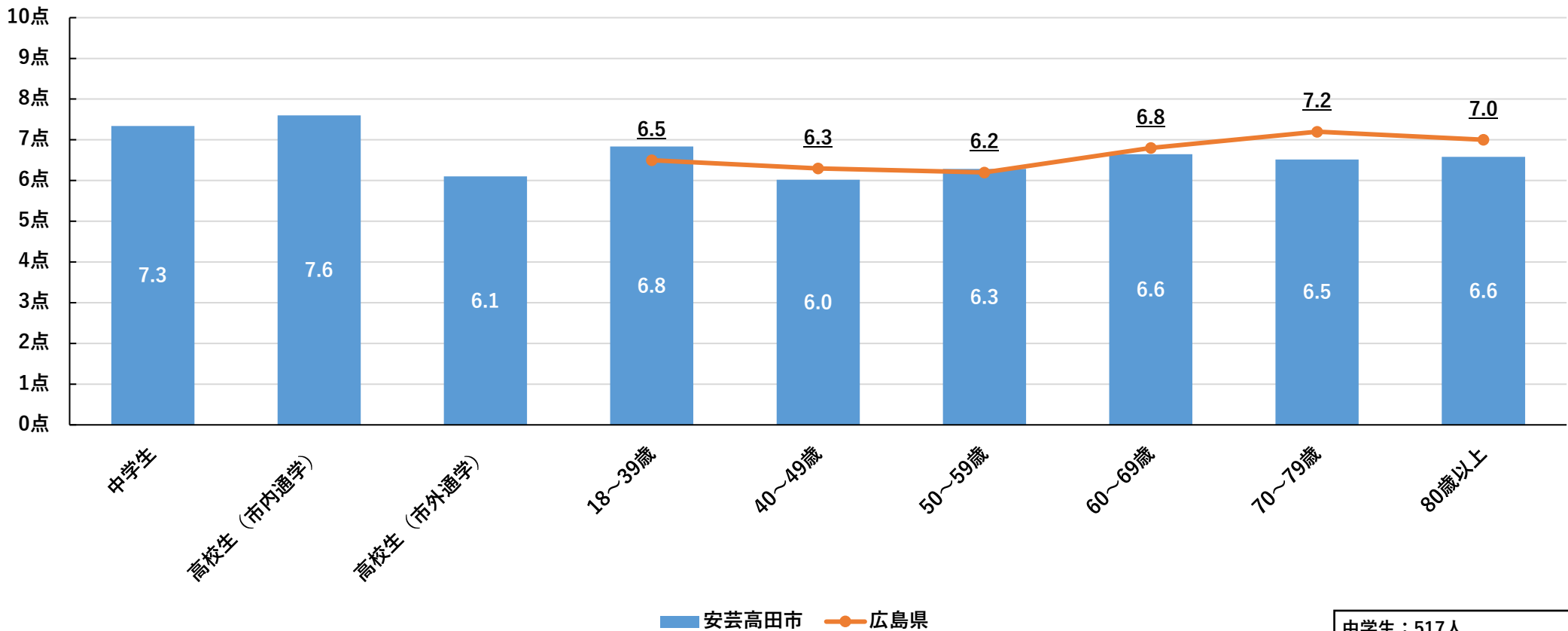
・将来像の検討結果を踏まえて、以下のとおり目標指標を変更します。

■目標指標の新旧表

区分	前回審議会で提示	今回審議会で提示	変更理由
基本理念			
百万一心、未来へつなぐ安芸高田	市民の幸福度	同様	
将来像			
①受け継いでいきたい 安芸高田らしさ	市民の地域への愛着度	同様	
②新しい価値観を生む・ まちの魅力を育む機能	産業の付加価値額 地域経済循環率	産業の付加価値額 地域経済循環率 観光客数（≡関係人口） ※国土交通省国土政策局の関係人口デ ータを活用した分析より、関係人口 と休日滞在人口（≡観光客数）には 正の相関（R=0.65）があることが確 認。この知見を踏まえて、観光客数 を目標指標として活用。	・将来像の検討結果を踏まえると、新 しいものを芽ぶかせるための機能の 側面も強くなったため、地域内外の 人々と文化が混ざり合う状況を観光 客数でも表現 ・なお、産業の付加価値額及び地域経 済循環率については、基本計画の各 施策のアウトカム指標として活用
③守っていききたい 地域にとっての暮らしの機能	地域振興組織への活動への参加者	定住人口	・市民アンケートより、守っていきた い地域にとっての暮らしの機能とし て、医療機能が上位にランクイン ・人口ビジョンでは、救急告示病院や 一般病院の撤退基準としての人口規 模1.75万人を目標人口として掲げて おり、この整合が図れるため、定住 人口に差し替え

- ・ 世代別の市民の幸福度（平均値）の現況値は以下のとおりです。
- ・ 20年後の2045年には、**現況値以上**とします。なお、4年毎に評価を行い、数値目標の精度向上を図ります。

■市民の幸福度（平均値）

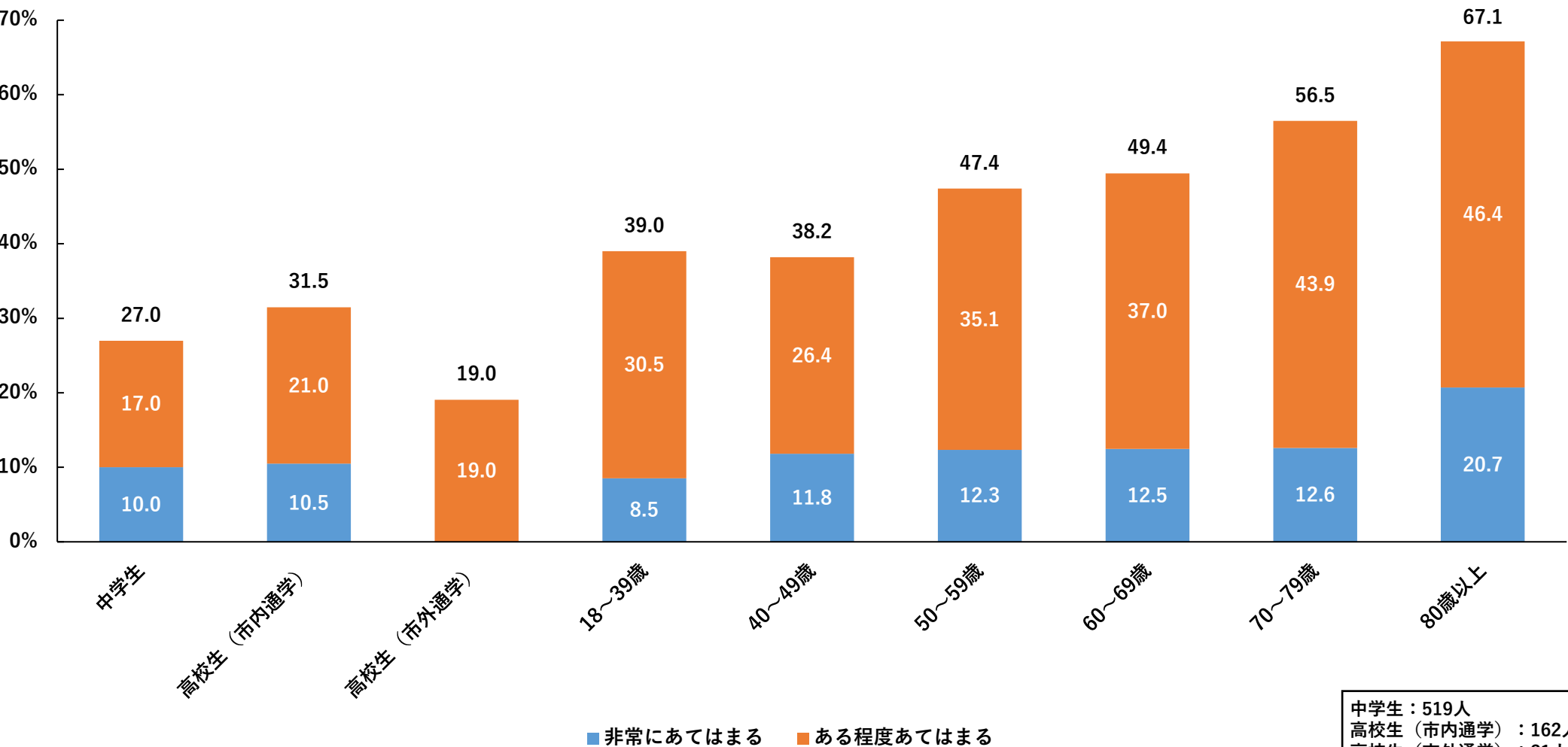


中学生：517人
高校生（市内通学）：162人
高校生（市外通学）：28人
18～39歳：141人
40～49歳：111人
50～59歳：154人
60～69歳：266人
70～79歳：268人
80歳以上：145人

注：広島県（2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査）、安芸高田市（市民アンケート）
出典：デジタル庁『2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査』

- ・ 世代別の市民の地域への愛着度の現況値は以下のとおりです。
- ・ 20年後の2045年には、現況値以上とします。なお、4年毎に評価を行い、数値目標の精度向上を図ります。

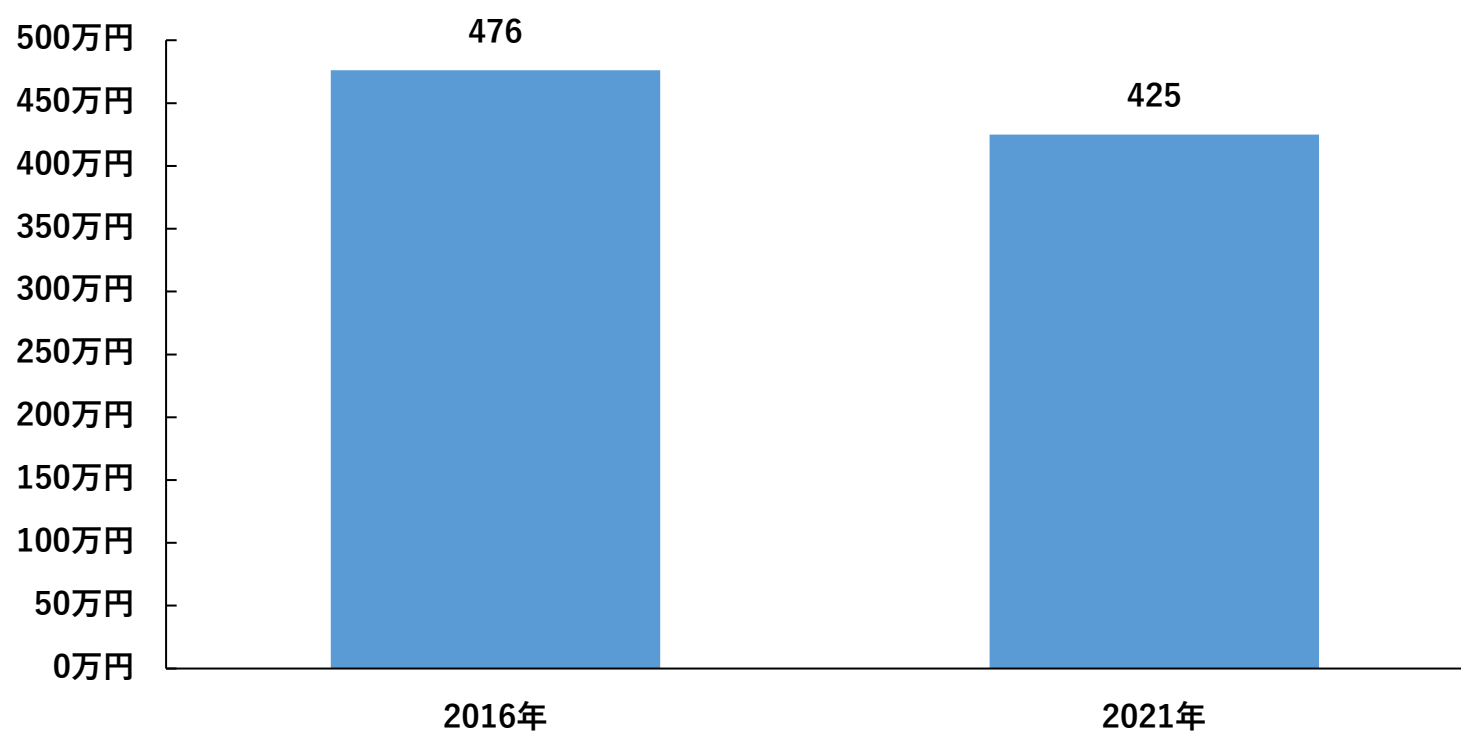
■市民の地域への愛着度（暮らしている地域にずっと住み続けたいと思う割合）



中学生：519人
高校生（市内通学）：162人
高校生（市外通学）：21人
18～39歳：141人
40～49歳：110人
50～59歳：154人
60～69歳：265人
70～79歳：262人
80歳以上：140人

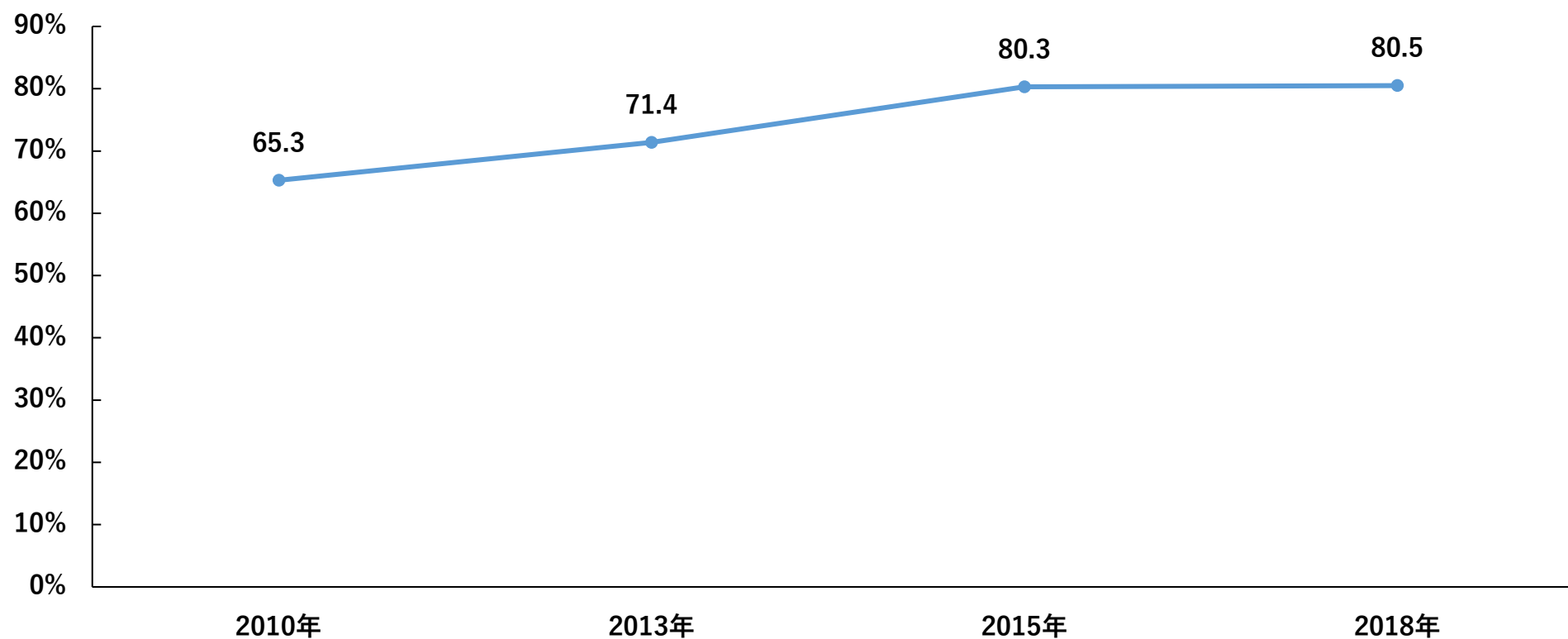
・産業の付加価値額の推移は以下のとおりであり、20年後の2045年には、現況値以上とします。

■事業従業者1人当たりの付加価値額の推移



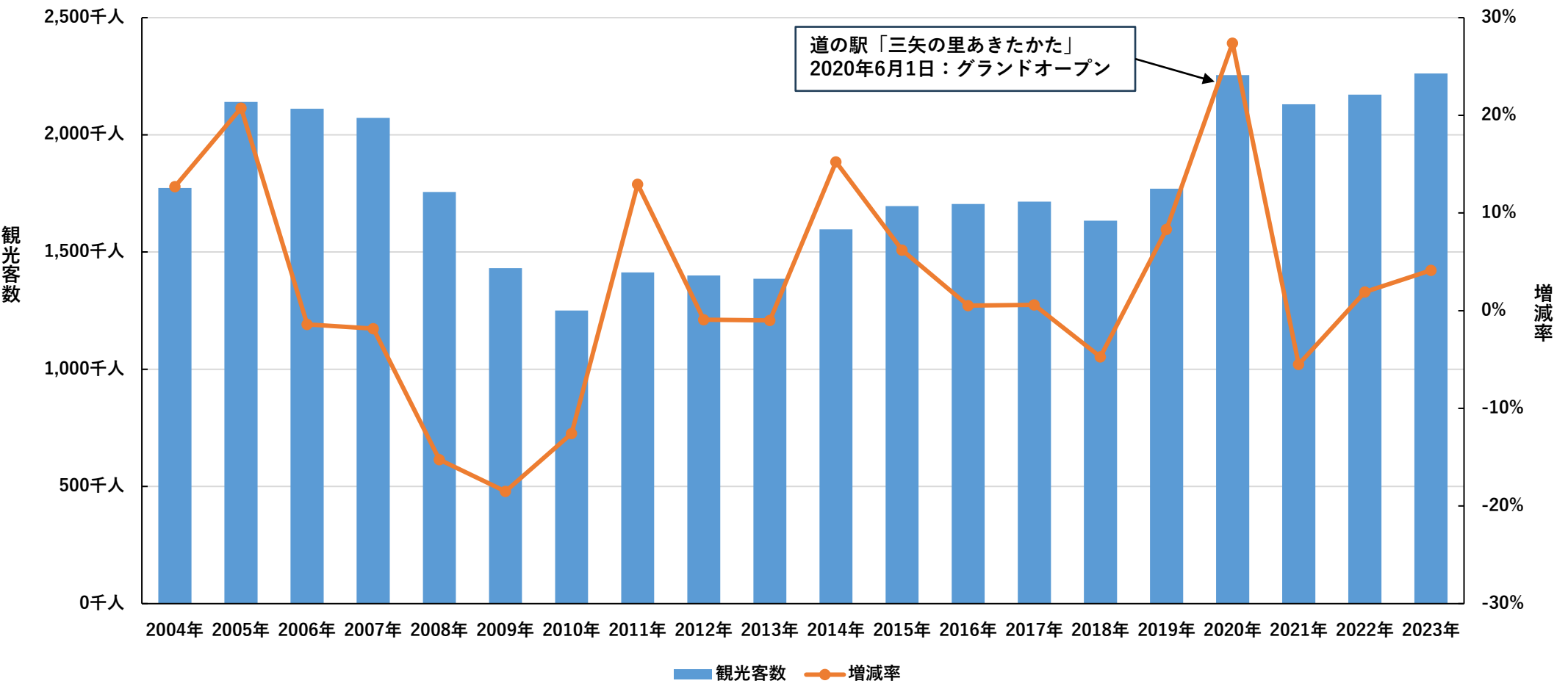
・地域経済循環率の推移は以下のとおりであり、20年後の2045年には、現況値以上とします。

■地域経済循環率の推移



・観光客数の推移は以下のとおりであり、20年後の2045年には、現況値以上とします。

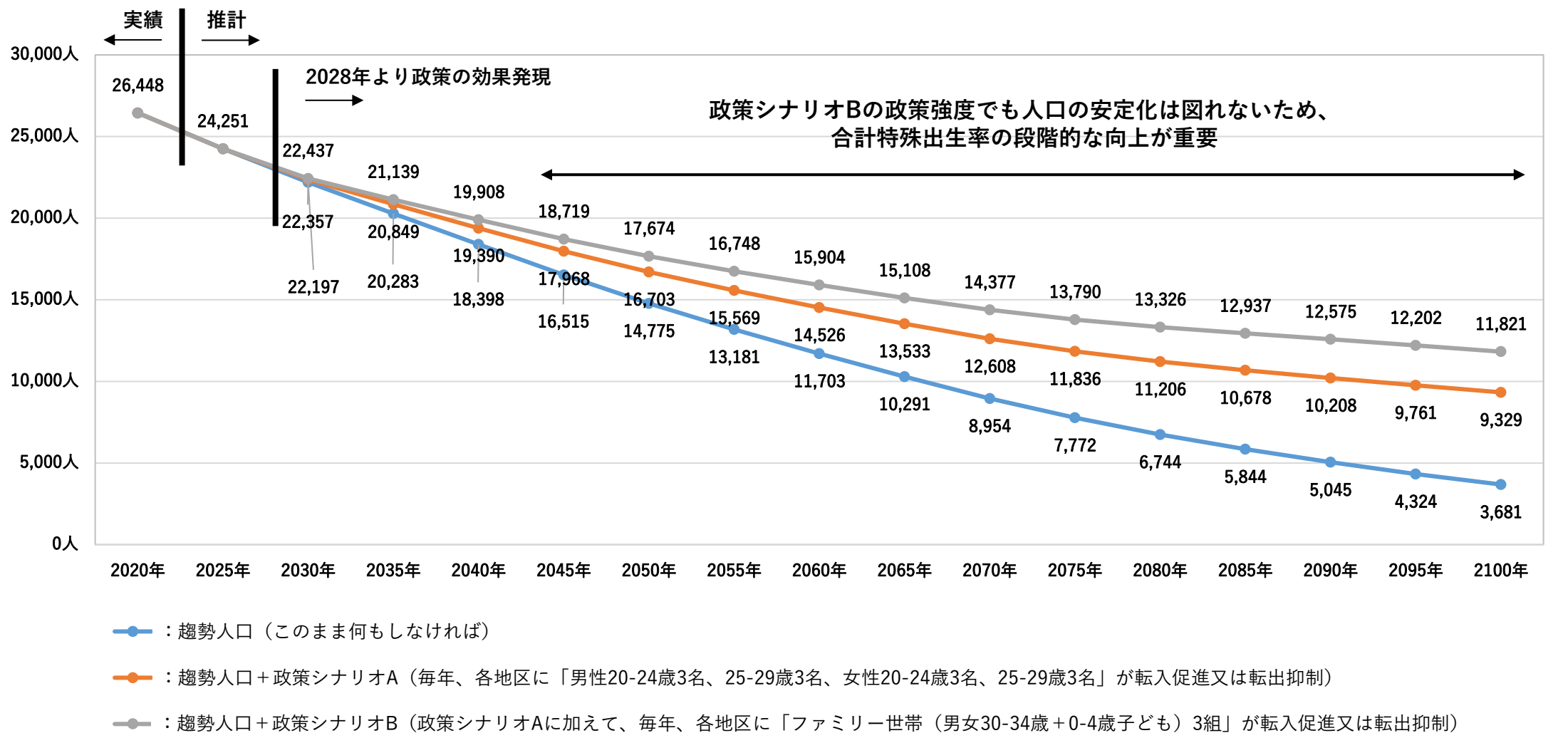
■観光客数の推移



出典：一般社団法人広島県観光連盟（HIT）『令和5年広島県観光客数の動向-Ⅲ-観光客統計表』

・人口ビジョンの検討結果を踏まえて、20年後の2045年には、約1.8万人の定住人口の維持を目指します。

■人口ビジョンにおける人口シミュレーションの結果



出典：国勢調査（2015年・2020年）、国立社会保障人口問題研究所のデータを活用して、独自に推計

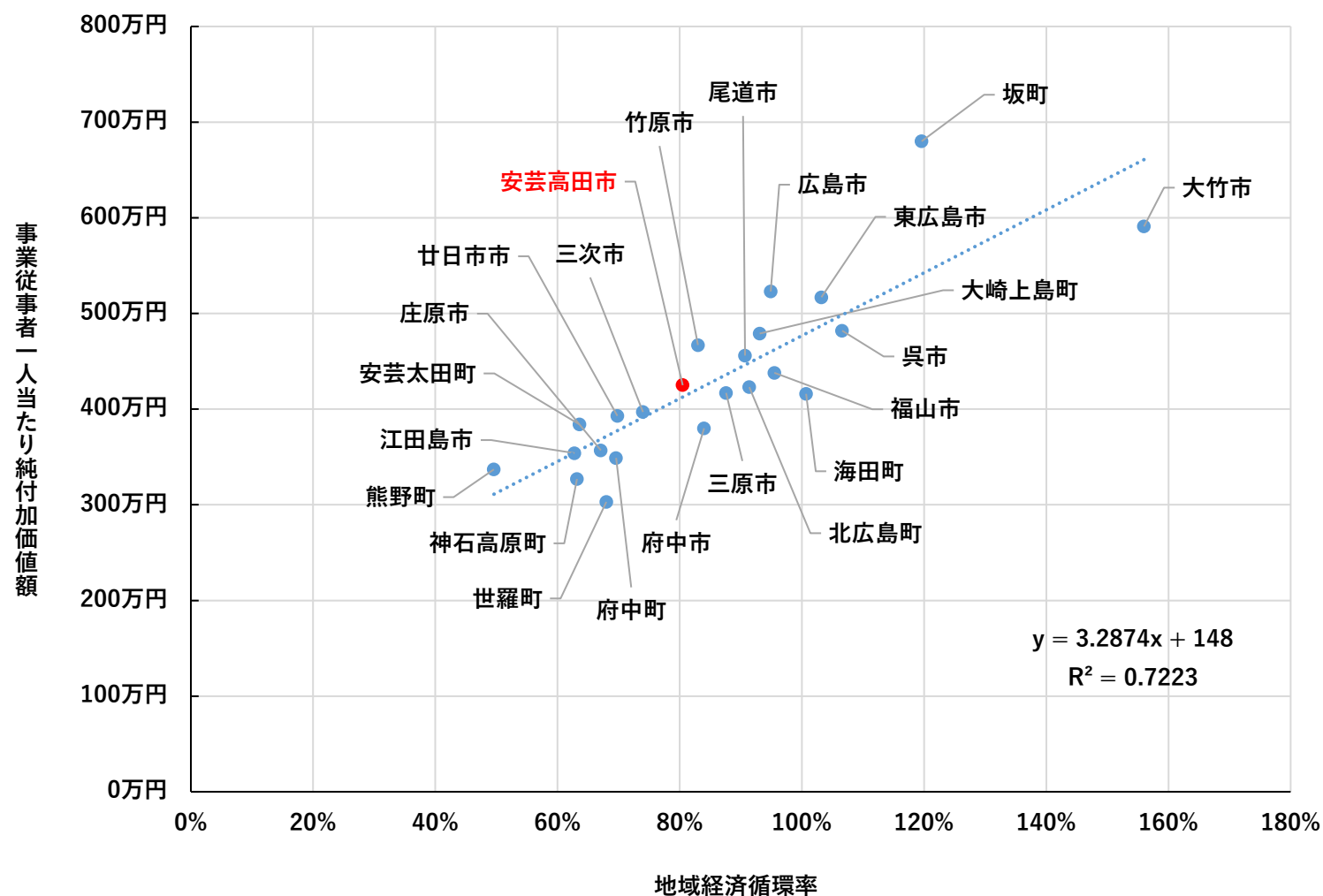
・第3次安芸高田市総合計画基本構想における目標指標及び数値目標は、以下のとおり設定します。

■数値目標の一覧

区分	目標指標	現況値		目標値	
		年度	値	年度	値
基本理念 ―百万一心、未来へ つなぐ安芸高田―	市民の幸福度	2024	6.0-7.6点	2045	現況値以上
将来像 ―受け継いでいき たい安芸高田らしさ―	地域への愛着度	2024	27-67%	2045	現況値以上
将来像 ―新しい価値観を生 む・まちの魅力を育 む機能―	産業の付加価値額	2021	425万円/人	2045	430万円/人
	地域経済循環率	2018	80.5%	2045	85.0%以上
	観光客数	2023	226万人	2045	250万人以上
将来像 ―守っていき たい地域にと っての暮らし の機能―	定住人口	2024	2.4万人	2045	1.8万人

- ・ 事業従業者一人当たり純付加価値額と地域経済循環率には強い正の相関関係があります。
- ・ この傾向を踏まえた回帰式 ($y=3.2874x+148$) を活用して、地域経済循環率の2045年の目標値85%をxに代入して、産業の付加価値額の2045年の目標値427万円 (≒430万円) が試算されます。

■産業の付加価値額と地域経済循環率の散布図（広島県内市町が対象）



項目	内容
基本理念 －まちづくりに係る普遍的な考え方－	誰が？・・・市民＋市に関わる多様な人々 誰に？・・・20年後の次世代、子や孫たち 何をつなぐ？・・・世代を超えて共通する安芸高田市
将来像 －基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態－	●受け継いでいきたい安芸高田らしさ ・とけあい、芽ぶき、一つに就る。雰囲気づくり ※過去から現在までにみる安芸高田のDNAも含む ●新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能 ・多様な人々がまじり、新しいことが芽ぶく場所づくり ●守っていききたい地域の暮らしの機能 ・医療、移動手段をはじめ、生活する上で必要不可欠な機能の確保
将来像の実現に必要な3つの姿勢	・多様な人々の価値観を肯定的にとらえ認めて、行動することで次の展開が進み、それを周りの人に共有することで、魅力的で一人ひとりが好きな安芸高田市につながる ※アンケート調査結果、シンポジウムの結果を参考に整理
将来像の実現に必要な政策と施策	①市民とともに歩むまちづくり ②市民が暮らしやすいまちづくり ③子どもたちの学びと成長に寄り添うまちづくり ④いつまでも健康で安心して暮らせるまちづくり ⑤産業振興で活力あるまちづくり

- ・基本構想の政策体系は以下のとおりです。
- ・横断的な政策手段として、①公民連携の強化、②デジタルの活用、③プロモーションの強化を図ります。

基本理念	将来像	3つの姿勢	政策目標	施策体系（名称は再考）
百万一心、未来へつなぐ安芸高田	とけあい、芽ぶき、一つに就る。	肯行共定動有	①市民とともに歩むまちづくり	・市民と行政の対話による寛容なまちづくり ・公共施設の総延床面積の削減による行財政改革 ・職員の育成と機能的な組織づくり
			②市民が暮らしやすいまちづくり	・おたがいさまの気持ちで繋がり、誰も置き去りにしないまちづくり ・地域振興組織等による住民自治のまちづくり ・あらゆる危機に対する防災・減災のまちづくり・災害死ゼロに向けた自助・共助の推進・お互いさまの気持ちで繋がり、誰も置き去りにしないまちづくり ・高齢者・子どもの見守りと居場所づくり ・買い物不便地域解消のための移動販売の推進 ・公共交通機関の空白地帯を補完するための取組の検討 ・地域内外の移動を支える交通インフラの維持・管理 ・互いを尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現 ・ひろしま安芸高田神楽の魅力発信と安芸高田市のファンの拡大 ・誰もがスポーツに親しみ、スポーツへの関心を高めることが出来る機会の創出 ・道の駅等の拠点施設を活用した市内外からの集客による賑わいの創出 ・地域の持続可能性を高める循環型社会の推進
			③子どもたちの学びと成長に寄り添うまちづくり	・社会の未来を担う子どもを育てる制度と仕組みの見直し ・安心して産前産後期間を過ごせるためのサポート支援 ・子どもたちの共感性、内発性、創造性を伸ばす保育支援 ・子どもたちにより良い学習環境を提供するための取組の検討 ・いじめや不登校等悩みを抱える児童生徒を支援するための体制整備 ・フリースクールやオンライン教室を通じた子どもの学びの場の拡充・連携 ・多世代交流拠点としての役割も担う子ども食堂の実現
			④いつまでも健康で安心して暮らせるまちづくり	・誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくり ・高齢者の健康の保持増進・介護予防、社会活動等への参加の推進 ・全ての市民の健康に欠かせない地域医療の体制の確保・強化
			⑤産業振興で活力あるまちづくり	・企業誘致（IT企業等）による地域経済の活性化 ・市内商工業の振興に向けた各種団体との連携支援 ・農業経営基盤強化の推進による稼げる農業の実現 ・林業従事者の育成確保と適切な森林整備 ・自然、文化、歴史等の地域資源を生かした観光づくりの推進

注：表中の赤字は第2回審議会からの変更点

- ・人口減少に伴う財政の縮小を踏まえれば、①公民連携の推進、②デジタルの活用による行政サービスの効率化が必要不可欠です。また、その実現のためには、③市内外へのプロモーションにより、安芸高田市の魅力や価値を共有し、共感と行動変容を促すとともに、観光客・関係人口の増加や民間投資を促進していくことが重要です。
- ・第3次安芸高田市総合計画では、こうした横断的な政策手段を推進していきます。

横断的な政策手段		内容
大分類	中分類	
公民連携の推進	担い手の視点	・ 民間企業等の外部人材の活用により、行政サービスの効率化等を推進 ・ コミュニティ組織と連携して、政策課題を地域課題に移行
	サービス・技術の視点	・ 民間企業等が保有するサービス・技術の実証の場を提供
	資金の視点	・ PPP/PFIによる公共施設等の維持・管理、運営を最適化 ・ 成果連動型民間委託契約方式（PFS/SIB）の導入による公共サービスの効率化 ・ ふるさと納税、企業版ふるさと納税による公共投資の原資の確保 ・ まちづくりの取り組みに対する地域住民の出資、クラウドファンディング等による地域エンゲージメントファイナンスの推進
デジタルの活用	庁内の視点	・ 行政手続のデジタル化や行政内部のデータ連携等を通じて、業務効率化を推進
	地域の視点	・ 地域へのデジタルの導入による、あらゆる生活サービスの質の向上を推進 ・ デジタルリテラシーを高め、デジタルの導入の寛容性を高める取り組みを推進
プロモーションの強化	市内の視点	・ 安芸高田市の魅力や価値を共有し、共感と行動変容を促進
	市外の視点	・ 安芸高田市の認知度を高めて、観光客・関係人口の増加や民間投資を促進